

2020年10月29日 全6頁

プレジャーボートのシェアリングエコノミー

～ボートシェアで海に親しみ、海洋の諸課題に対してより関心を～

経済調査部 主任研究員 市川拓也

[要約]

- ボートシェアとはモーターボート等のプレジャーボートを所有する者が使用していない時間に、インターネット上のプラットフォームを通じて他人に貸し出す仕組みである。マリンレジャーが盛んな欧米ではすでに広まりをみせているが、日本でもようやく幕を開けたところであり、ボートシェア普及の可能性が見えてきている。
- ただし、日本ならではの課題や注意点がある。ボートのみの貸借をどう広げるかが課題となる上、海でオーナー自身が操縦して釣りガイドをする形で乗客を募る際は、「遊漁船業の適正化に関する法律」に注意する必要がある。
- ボートシェアの本質的な価値は、使っていない時間のボートの有効活用であり、シェアによる低価格での利用にある。ボートシェアを通じて多くの者が海に親しみを持つようになれば、海洋プラスチック問題や海洋資源の維持といった海洋が抱える諸課題に対してより関心が向くであろうし、SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」といった意識も高まろう。

はじめに

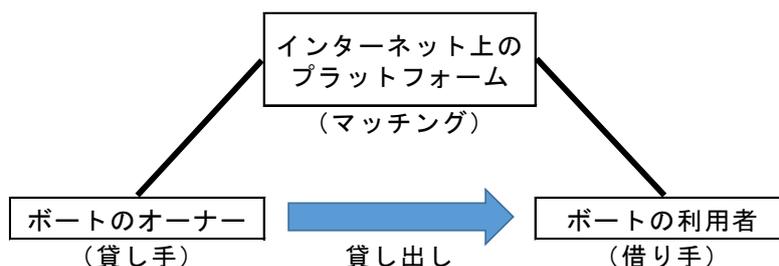
乗り物におけるシェアリングエコノミーには、インターネット上のマッチング機能を使って顧客を乗せる「ライドシェア」やドライバーの目的地と同じ目的地の者を乗せる「相乗り」、所有者が使っていない時間に自動車を貸し出す「(個人間の)カーシェア」等がある。陸上で自動車を用いてこのようなシェアが可能なのであれば、水上でプレジャーボートを用いて同じようなことを行うことができると考えても不思議ではない。本稿では、日本ではまだ馴染みのないボートシェアについて考察を試みたものである。

1. ボートシェアとは

本稿におけるボートシェアとは、モーターボート等のプレジャーボートを所有する者が使用していない時に、インターネット上のプラットフォームを通じて他人に貸し出す仕組み（図表 1）である。後述する GetMyBoat のウェブサイトには「the average boat is only used 8% of the year」（平均的なボートは年間 8% しか使われていない）とあり、実際に利用されている時間は限られている。オーナー側からすれば、こうした多くの空き時間におけるボートを利用希望者に有料で貸し出すことができれば、ボートの維持費等に充てることができる。

個人間で自動車の貸借を行うカーシェアと似ているが、ボートだけを貸し出すとは限らず、ボートと操縦者をセットで貸し出すこともある。利用者自らが操縦するのであれば操縦者は不要であるが、操縦者付きにすることでボートの操縦経験がない利用者でも気軽に楽しむことができる。高額な所有コストを負担することなく様々なボートを体験できる点は、「所有から利用へ」を実現するシェアリングエコノミーのあり方そのものである。

図表 1 ボートシェアの仕組み



（出所）大和総研作成

2. 欧米で人気のボートシェア

冒頭で言及した通りボートシェアは日本ではあまり馴染みがないが、マリンレジャーが盛んな欧米では「Peer-to-Peer Boat Rental」（個人間のボートレンタル）等の呼称で、すでに広まりをみせている。筆者が認識するところでは、米国の GetMyBoat と Boatsetter、フランスの Click&Boat と Samboat によるサービスが個人間ボートシェアのプラットフォームとして有名どころであると思われる。

それぞれのウェブサイトによると、GetMyBoat のサービスは 184 か国で 13 万隻超が利用可能で、アプリのダウンロード数は 17.5 万件超であるのに対し、BoatSetter は約 2 万隻の登録ではあるが、世界 600 超の拠点で利用でき、2,300 人超の操縦者のネットワークがある。Click&Boat は国内外で 3.5 万隻超のボートが利用でき、Samboat は 4 万隻超の利用が可能である。

図表 2 は GetMyBoat と Boatsetter の人気のボートレンタルについての一覧である。用途とボートの種類が混在している点はあるが、様々なボートを用いて多様な使われ方がなされている

様子がわかる¹。GetMyBoatにあるボートツアーやホエールウォッチングといった項目からは、オーナーサイドによるレジャー企画型のサービスを思い描かせる。単にボートを貸し出すだけのレンタルにとどまらない、多様なサービス提供を可能とするプラットフォームであることがうかがわれる。

図表2 GetMyBoatのPopular Activities (左) 及び BoatsetterのPopular Rentals (右)

Popular Activities (GetMyBoat)	Popular Rentals (Boatsetter)
<ul style="list-style-type: none"> ・ Pontoon Rentals ・ Yacht Rentals ・ Jet Ski Rentals ・ Houseboat Rentals ・ Catamaran Charter ・ Party Boat Rental ・ Powerboat Rentals ・ Boat Tours ・ Whale Watching ・ Sailing Charters ・ Gulet Charters ・ River Cruises ・ Paddleboard Rentals ・ Canoe Rentals ・ Kayak Rentals ・ Snorkeling ・ Deck Boat Rental ・ Super Yacht Charter ・ Fishing Boat Rentals 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Luxury Yacht Charters ・ Yacht Rentals ・ Pontoon Boat Rentals ・ Jet Ski Rentals ・ Fishing Boat Rentals ・ Watersports ・ Party Boat Rentals ・ Bachelor Party Boat Rentals ・ Bachelorette Party Boat Rentals

(出所) GetMyBoat 及び Boatsetter のウェブサイトより大和総研作成

ちなみに筆者が確認したところ、前述の4つのウェブサイトのうち Boatsetter を除く3つのサイトで、日本でのボートシェアが掲載されている(2020年10月執筆時点)。インバウンドの観光客向けとみられるが、観光で海外からボートを持ち込むことは常識的には困難とみられるため、日本でマリンレジャーを楽しみたい人には魅力的なサービスとなり得よう。

3. 日本国内では幕開けしたばかり

国内向けにもボートシェア普及の可能性が見えてきている。株式会社 Port1 がプラットフォーム事業者として、インターネットを用いたマッチングでボートを利用者に貸し出すサービス「ポートル」を提供している。オーナーサイドは所有するボートを登録し、審査に通ればインターネット上のウェブサイトに掲載され、利用者とマッチングがなされれば貸し出しが可能とな

¹ ボートの種類については厳格な定義は難しいが、Pontoon は四角い箱船、Yacht はモーターボートやクルーザー(ちなみに、日本で一般にヨットと呼んでいるのは Sailboat)、Houseboat は家の機能を有するボート、Catamaran は横に2隻の船体を繋いだ双胴船、Gulet は帆船タイプの船を指すものとみられる。

る。同サービスは2019年8月にβ版（正式公開前の試用版）の提供がリリースされ、2020年9月に正式版がリリースされたばかりである。「船を稼働させたいオーナーと、船に乗ってみたいゲストを繋ぐことで、船遊びの参入障壁を下げ、日本を海から変えていくサービス」²として

いる。

図表3にあるように、「ポートル」は操縦者が不要な点と遊び方を自由にカスタマイズできる点を特徴としており、後者はともかく前者の操縦者が不要（＝操縦者付きのみ）としている点は前述の欧米のプラットフォームと異なる点である。ボートのみのレンタルではなく、「オーナーが信頼する操縦者が必ずマッチングされる」（図表3）形でのチャーター船予約の形を取っている。チャーター船と言えば以前から存在するレンタルの形であるが、インターネットを通じて空いている時間のボート貸しの仕組みが組み込まれている点で「ボートシェア」と言えるのである。

図表3 ポートルで出来ること

■ 操縦者が不要

ポートルに掲載する全ての船には、オーナーが信頼する操縦者が必ずマッチングされるので、利用者は免許不要で豪華なクルーザーを利用することができます。

■ 楽しみ方を自由にカスタマイズ可能

予約の前にオーナーに直接相談することができるので、プロポーズや、お誕生日祝い等のサプライズや、離島への移動といったあらゆる用途をオーダーメイドすることができます。

（出所）株式会社Portl「【船で楽しむ。をシェアできる】チャーター船予約プラットフォーム『Portl（ポートル）』正式版をリリース！三密を回避する貸切オーダーメイドの船遊びをより簡単に。」（2020年9月21日、PR TIMES掲載）

4. 日本におけるボートシェアの課題と注意点

ボートシェアを通じたボートの有効活用は、日本のマリンレジャーの普及にとって新たな可能性を秘めていると言える。しかし、日本国内で一定基準以上の動力船をBareboat（裸用船）として借りる場合、操縦するには船舶免許が必要である。このことは、海外では一部を除き、小型船舶の免許制度がないのと比べれば、日本におけるマリンレジャー文化の醸成を遅らせる要因となっている可能性がある。安全性を考慮した上でいかに免許を取りやすくすることができるかを考えていく必要がある。

さらに免許があったとしても、日本の狭い沿岸海域で漁船やヨット、大型船などが行きかう現状からすれば、航路等を熟知しないまま他人のボートを操縦するとなると危険が増す可能性はある。船上パーティをするのであれば、「ポートル」のように操縦者を伴ったボートを借りるのが望ましいのは確かであろう。だからこそ、残りのボートのみの貸借についてボートシェアの

² 図表3の出所に同じ。

パイをどう広げるかが課題となろう。

またこの分野に様々なプラットフォーム事業者が国内向けに参入するようになった場合、注意が必要な点と言えば「遊漁」についてである。仮に海でオーナー自身が操縦して釣りをさせることを前提として乗客を募ろうという場合は、「遊漁船業の適正化に関する法律」に注意する必要があるだろう。もし図表4にある「遊漁船業者」に該当するならば、営業所ごとにその所在地を管轄する都道府県知事の登録を受ける必要がある（第3条第1項）。同法には、登録しないで遊漁船業を営んだ場合の罰則規定もある（第28条第1号）。兵庫県ウェブサイトには「たとえ年に1回であっても、営利を目的として遊漁船業を営む場合は、登録が必要」³とあり、かなり厳格なようにも思える。

図表4 遊漁船業等の定義（遊漁船業の適正化に関する法律第2条）

第二条 この法律において「遊漁船業」とは、船舶により乗客を漁場（海面及び農林水産大臣が定める内水面に属するものに限る。以下同じ。）に案内し、釣りその他の農林水産省令で定める方法により魚類その他の水産動植物を採捕させる事業をいう。
 2 この法律において「遊漁船」とは、遊漁船業の用に供する船舶をいう。
 3 この法律において「遊漁船業者」とは、次条第一項の登録を受けて遊漁船業を営む者をいう。

（出所）遊漁船業の適正化に関する法律

ただし、海で釣りをさせることを前提に乗客を募る形のボートシェアは前述の GetMyBoat 等のウェブサイトで見られるが、日本では急にそこまで幅を広げる必要もないであろう。オーナーがボートを貸し、借り手が自ら操縦して釣りを楽しむことはできる。釣り以外にもボートには多様な用途があり、景色を楽しむ、食事をする、日光浴をする、沖に停めて泳ぐなど、楽しみ方はいろいろある。

5. ボートシェアで海に親しみ、海洋の諸課題に対してより関心を

筆者は上記のような課題や注意点はあるものの、ボートシェアそのものには大きな可能性があり、むしろ遅れている分、伸びしろが大きいと認識している。マリンレジャー文化の醸成された欧米と違い日本ではそこまで浸透していない分、インターネットのマッチングによるボート貸借の容易さは、マリンレジャー普及のための決め手になる可能性がある。今後、前述の欧米事例のような多様なボートシェアを行えるプラットフォーム事業者が国内向けに参入してくれば、一気に盛り上がる可能性もあろう。

ボートシェアの本質的な価値は、使っていない時間のボートの有効活用にあり、他人のボートを低価格で利用できることにある。シェアすることで資源の消費を抑えつつ、より多くの人に便利なサービスが提供される点において、民泊等のシェアリングエコノミーと何ら変わりが

³ 兵庫県ウェブサイト「[遊漁船業の登録について](#)」。

ない。

ボートシェアを通じて多くの者が海に親しみを持つようになれば⁴、海洋が抱える諸課題に対してより関心が向くであろう。例えば、海洋プラスチック問題についてはSDGsの目標12「つくる責任つかう責任」や目標14「海の豊かさを守ろう」が関係し、海洋資源の維持については目標14に加え目標13「気候変動に具体的な対策を」も関係するとみられるため、こういった意識も高まるものと考えられる。

そもそも海との接点がなければ、本気で海を守ろうとは思わないのではないだろうか。インターネット上でマッチングを行うボートシェアは、デジタル機器の利用に長けた若者の「海離れ」を食い止めるきっかけとなる可能性がある。積極的な利活用を通じて、海とより多くの人とのつながりが増すこと、幅広い年齢層に海への親しみが広がることを期待したい。

⁴ 日本財団の『海と日本人に関する』意識調査結果（2019年7月12日）では、「海にとっても親しみを感じる」に「あてはまる」割合が43%であるとしており、過半に満たない状況にある。